

DJC コミュニケーション（自立活動）指導マトリックス

CCC-2 子どものコミュニケーションチェックリストの領域と特別支援学校学習指導要領（国語）の対応

領域		指導領域	小学部1段階 0～2歳程度	小学部2段階 3～5歳程度	小学部3段階 小学1年生程度	中学部段階 小学2・3年生程度	高等部段階 小学4～6年生程度
構造的側面	1. 音声	発音・はっきりと話す	・ア～・ウ～/単語 ・音声模倣 ・遊びを通し言葉のもつ楽しさに触れる	明瞭な構音 ・歌をうたう ・しりとり	明瞭な構音 ・早口言葉	声の大きさや抑揚に気を付けて話す	声の大きさや抑揚を工夫して話す
	2. 文法	助詞・接続詞・指示語などを使用して話す 正しい文法で文を構成して話す（会話）	1語で話す ・指差し ・ジェスチャー ・単語 2～3語つなげる（助詞無し）	助詞を使って2～4語で話す 一人称の使用 “ぼく” “自分の名前”	文（口語）をつないで詳細を話す 例）出来事について、言葉を用いて振り返る等	正しい文法で話す	意図や状況に応じて、文の構成を工夫して話す
	3. 意味	単語の意味を正しく理解して適切に選択、使用する	物や場所の名前 音声言語と具体物（写真）の一致	身近な語彙 ・上・下・中・前・後 ・動詞・形容詞 （動きや状態と言葉の意味の一致）	より広範囲な語彙の拡大 同義語・類義語	ことわざ	ニュースがわかる程度の複雑な表現を理解する
	4. 首尾一貫性	内容が相手に伝わるように話す 筋道立てて話す		“誰が、何をした”、“どこで、何を”等の、事実を話す	時間的な順序で話す 言葉をつなげて出来事の状況が伝わるように話す	時系列や理由を明確にして話す	自分の意見と、それを支持する情報*が明確に伝わるように話す * ニュース、本、授業で習ったこと等
語用的側面	5. 場面に適切な話し方	相手の気持ちを考えて話す 状況を考えて話す （同じ質問を繰り返したり、一方的に話したりしない）	共同注意	場面や状況に沿った、シンプルなやり取り ・「痛い？」 ・「食べる？」等、	身近な相手の気持ちや状況がわかると、それに応じた会話をする 継続的な会話のキャッチボールをする	身近な相手の気持ちや状況を考えて話す 場面や状況に沿って、会話のキャッチボールをする	相手の気持ちや状況を考えて話す 相手の興味や思い等を考慮して、会話のキャッチボールをする
	6. 定型化されたことば	決まったフレーズを使用する	“おはよう・バイバイ・ちようだい”等を意味する、ジェスチャーや喃語を含む表出	「ありがとう・ごめんね」「いただきます、ごちそうさまでした」「～ください」	「気を付けてね」「お願いします」「一緒に～しよう」「～に行ってきます」	定型文を適切に使う ・クッション言葉 ・発表や、報告・連絡・相談 ・電話	定型化された言葉の応用 ・日常よく使われる敬語 ・クッション言葉 ・発表や、報告・連絡・相談

領域		指導領域	小学部1段階 0～2歳程度	小学部2段階 3～5歳程度	小学部3段階 小学1年生程度	中学部段階 小学2・3年生程度	高等部段階 小学4～6年生程度
語用的側面	7. 文脈の利用	状況や文脈から適切にことばの意味を解釈することができるか	身近な大人の笑い声、笑顔、楽しそうな歌声に、“楽しい・安心”といったポジティブな反応 手遊び歌に合わせて、手を動かす等の反応	場面に応じた、大人とのコミュニケーション（端的なやり取り～継続的なやり取りへ） 場面に応じた、子ども同士一対一の、コミュニケーション（端的なやり取り～継続的なやり取りへ） 簡単な「ナンデヤネン」等の、言葉の勢いや雰囲気を楽しむ（文脈の理解はしていない）	簡単な3ヒントクイズに答える（例：“白と黒で、笹を食べる、動物は何？”） いつもと違う言い方をされても、文脈からその意図する内容がわかる例）「ペンある？」（出してほしい） 簡単なボケに対し「チャウチャウ」等の反応を返す 視覚情報の豊富な、わかりやすいボケやコントを楽しむ	3ヒントクイズをする（出題者になる、クイズに答える） わからない事柄について、質問する シンプルなコントを楽しむ（ツッコミの解説等を頼りに、理解する） ※指導の際は、誰かを傷つけるような表現が無いように配慮すること	表情、声のトーン、状況などから言いたいことを推理する（ロールプレイゲーム等） 多義語等の多様な表現（表にして使い分けを整理・使い分けの練習）等 コントの言語的やり取りによる面白さがわかる（文脈から一般的な反応とのズレを理解する）
	8. 非言語的コミュニケーション	会話時の表情や身振り・態度 状況に合った態度や反応	模倣 ・身振り ・ジェスチャー	場面に応じた反応 ・ジェスチャー ・表情 ・相槌	状況に応じた反応 ・ジェスチャー ・表情 ・相槌	相手の気持ちに応じた反応 ・ジェスチャー ・表情 ・相槌	社会的状況に応じた反応 ・ジェスチャー ・表情 ・相槌
状況への対応	9. 社会的関係	適正な他者との関わり	共同注意（ジョイントアテンション）：他者と同じものに注意を向ける 相手の顔や表情に注目する、目をみて声（言葉）を出す、伝えようとする 身近な大人とのやり取り	身近な大人を介した特定の友だちとのやり取り 人との関わりを楽しみ、コミュニケーションを取ろうとする	友だち同士での円滑で継続的なやり取り（悪気無く不適切なことを言わない） 相手の気持ちを理解したやり取り	小グループでの継続的で円滑なやり取り シンプルなテーマについての話し合い（周囲の状況に合わせて言動を調節）	友だちの集団の中で、状況変化に沿った継続的なやり取り（周囲の状況や心情に合わせて言動を調整）
	10. 興味関心	興味関心に基づく会話・自分に必要な情報を質問する（明日の予定・行事・給食など） 予期していない会話への対応	好きな物、遊びを指さしやクレーン、フレーズで要求する	好きな物や知りたい事柄について、質問する	好きな物や知りたい事柄について、より深い内容の質問をする	友だち集団の中で、興味関心のない話題になっても、話を聞きながら相槌を打つなどして対応する。（急に居なくなったりしない）	興味のない事柄、知らない事柄の話題でも、“それは何？”“どんな～？”と質問する等の対応をする。（興味関心に基づく、一方的な質問を繰り返したりしない）
会話	11. 会話	教員と一対一で仲の良い友だちと2人で友だちと4人グループで 継続した会話	物や遊びを介したシンプルなやり取り ・物の受け渡し ・ハイタッチ等 ・教員と一対一	特定の友だちと2人で短い会話	仲の良い友だち複数で短い会話	仲の友だち複数で継続的な会話	小グループで継続的な話し合い